

花粉問題への対策に向けて

花粉問題対策事業者協議会（JAPOC）

当協議会のなりたち

近年、花粉アレルギー症状を訴える人は人口の40%近くにもなり「国民病」とまで言われています。これを受け、本年4月、政府は実効性ある対策を進めることを閣議決定しました。花粉症は、発症が低年齢化する傾向にあること、医療費の負担や労働生産性の低下による経済損失が大きいこと、などが知られており、花粉症対策として、医療的な手段である点鼻薬や舌下免疫療法などの治療法¹⁾のほか、外出時のマスクや眼鏡の着用、室内での空気清浄機の使用など、がセルフケアとして広く実施されています。

私たち、花粉問題対策事業者協議会（Japan Anti-Pollinosis Council、略称JAPOC）は、このような花粉問題対策に関する商品・サービスの啓発や認証、普及を進めるために、業界を越えたさまざまなメーカーと、官・学が連携する団体として、2012年に発足しました。2015年には、花粉対策製品の認証制度を開始して、認証製品にJAPOCマーク（図①）を発行しているほか、「花粉対策の日（1月23日）」制定、国立科学博物館での「花粉と花粉症の科学」企画展などを通じ、啓発活動を実施してきました。認証対象製品のカテゴリーは6つで、空気清浄機、マスク、眼鏡、網戸、衣服用生地、換気扇と多岐にわたり、2023年1月時点では110製品が登録されています。



製品認証制度について

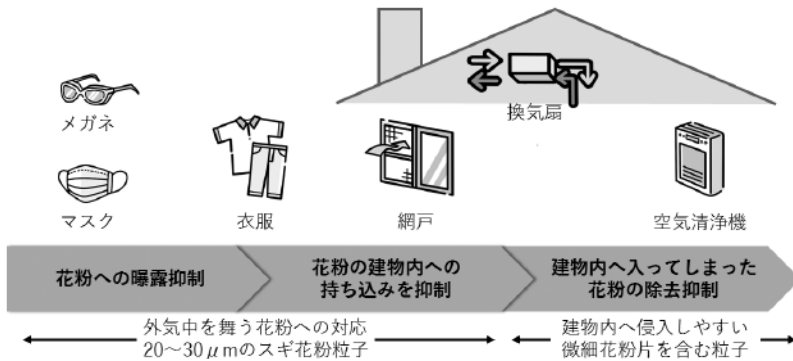
当協議会の認証の考え方の特徴として、「花粉対策の性能」と「利用者の使い心地」とを両立すること、を認証基準として考慮している点があります。表①²⁾に、現在の6つの認証対象製品カテゴリーについて、認証の考え方を示します。一般的に、花粉対策の性能を向上させるとこれに付随した欠点も生じます。そこで、本認証制度は、単に花粉対策の性能が高いだけでなく使用時の快適性も高い製品を認証することで、消費者がより良い製品を選択する一助になることを狙ったものとなっています。

表に示した「花粉対策の性能」と「利用者の使い心地」は、定量的な評価と公平な合否判定が可能となるように、試験規格と認証基準値を定めています。これらの規格は、当協議会の委員会が製品カテゴリーごとに業界や製品の既存の規格などを参照したり、独自の試験法を検討したり、認証基準と併せて、有識者の意見を取り入れて、策定しています。図②に花粉対策性能の基本的な考え方を示します。屋内・外といった製品を使用する場所や製品の用途に応じて、除去対象とする粒子を選択しています。

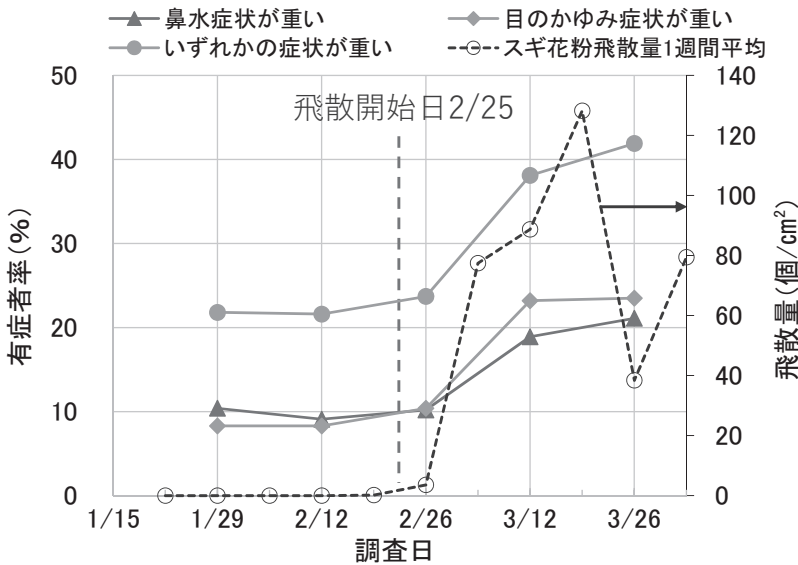
また、製品の認証審査は、試験規格にしたがって

▼表① JAPOC認証の考え方

製品カテゴリー	認証の考え方
空気清浄機	花粉除去性能が高い + 騒音が大きくない
マスク	花粉通過が少ない + 息苦しくなりにくい
メガネ	花粉が目につきにくい + 曇りにくい
網戸	花粉が侵入しにくい + 空気は通しやすい
衣服	花粉が落ちやすい + 湿気を通し、蒸れにくい
換気扇	花粉通過が少ない + 省エネになる



▲図② 花粉対策製品の性能に対する考え方



▲図③ 花粉症アンケート結果と花粉飛散量注) との相関

注) アンケート：1都3県、1回あたりN=500。症状は自己申告による。花粉飛散量：東京都1週間平均値。

第三者試験機関で実施した試験結果のエビデンスにもとづいて行っています。

当協議会の啓発活動

前述のように、当協議会では「花粉対策の日」を1月23日に決めました。これは、飛散が本格的になる前に対策を始めていただきたい、との視点に立ち、いわゆる「スギ花粉飛散開始日」とされる時期に比べて早めに設定しています。症状と対策についてのアンケート（2021、22年の1～3月に1～2週ごとに連続して実施）では、飛散開始日の前から花粉症を実感する人が20%近くおり、飛散開始日後から、この比率がおよそ倍増するということが確認できました。（図③³⁾）これは、スギ花粉飛散開始日が「1月以降、1平方センチメートルあたり1個以上のスギ花粉を、2日連続して観測した最初の日」と定義されている

のに対し、これ以前から花粉あるいは花粉が粉碎された微細片が飛散しており、敏感な人には症状が現れるためと考えられます。また、花粉対策で眼鏡をかけている人のなかには、鼻づまり等の症状が抑えられているとの実感がある人がいることなど、興味深い知見も得られています。

これからの花粉対策

現在、当協議会が進めている認証制度の対象製品カテゴリーは前述の6つとなっていますが、今後はさらに対象を拡大し、生活者に必要とされる空間やサービスなどのさまざまな分野の認証ができないか検討しています。（図④）。花粉問題は、花粉の生成・飛散・曝露・発症という4つのフェーズがあり、どれか1つではなく、全ての過程において対策を進めることが必要と考えています。さまざまな分野の対策についての情報発信や関連機関との連携を通じて、花粉問題対策の啓発と、QoL（Quality of Life、生活の質）向上という社会的課題の解決に貢献していきます。

目指している認証制度の将来像



▲図④ 認証制度の将来像

参考文献

- 厚生労働省 “はじめに ～花粉症の疫学と治療そしてセルフケア～” <https://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/kenkou/ryumachi/ookubo.html>.
- 花粉問題対策事業者協議会. “花粉対策にお悩みの方へ より良い花粉対策商品を見分けるマークを知っていますか?” <https://www.kafunbusiness.org/consumer>.
- 花粉問題対策事業者協議会. 「花粉対策の日イベント2023」配布資料. 2023.